

排ガス中のVOC試料採取方法の特徴

採取方法		メリット	デメリット
容器採取	捕集バッグ	<ul style="list-style-type: none"> ・手動ポンプの使用により電源を要しないサンプリングができる。 ・測定に必要な試料量を確保できる（5～20リットル）。 ・採取した試料の繰り返し分析が可能である。 ・コストが安い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・捕集バッグの耐熱を超えるような高温の排ガスに適用できない。 ・水分が多く含まれ採取後凝縮するような排出ガスには適用が難しい。 ・捕集バッグは再使用できない。
	キャニスター	<ul style="list-style-type: none"> ・サンプリングに電源を要しない。 ・流量設定により、最長24時間程度の連続採取ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・採取機器から測定機への試料の導入が困難。 ・測定に必要な試料ガス量の確保が困難。 ・高濃度のガス、水分濃度の高い試料を取り扱った場合、汚染除去が困難。 ・キャニスターの単価が高い。
	真空ビン	<ul style="list-style-type: none"> ・サンプリングに電源を要しない。 ・コストが安い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・採取機器から測定機への試料の導入が困難。 ・測定に必要な試料ガス量の確保が困難。
常温吸着採取		<ul style="list-style-type: none"> ・長時間の平均化した試料の採取が可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・採取機器から測定機への試料の導入が困難。 ・高濃度ガスを吸着させた場合、破瓜する可能性が高い。 ・加熱脱着の場合、再分析が不可能である。